

横浜市インフルエンザ流行情報 3号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザ警報が発令されました。

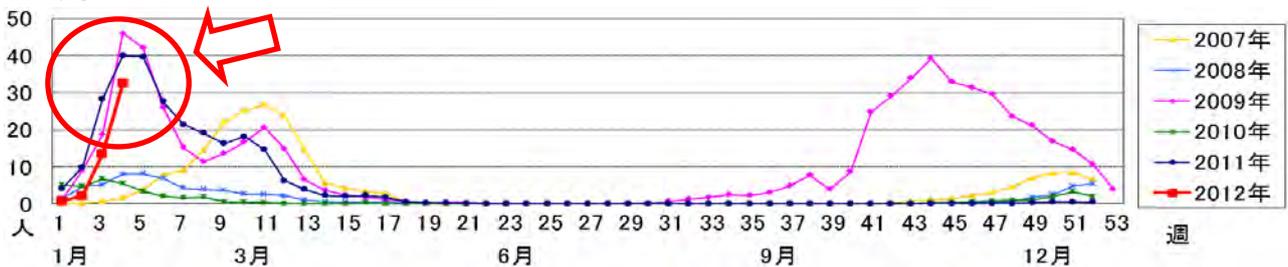
【概況】

第4週(1月23~29日)に定点^{※1}あたり**32.52**となり、警報が発令されました。前週の13.50^{※2}から倍以上となる急激な上昇です。10歳未満の患者が多く、学級閉鎖もさらに増加しています。予防接種をしても、うがいや手洗いなどの予防が重要です。市内ウイルスの検出はAH3型(A香港型)が多く、全国と同様の傾向です。

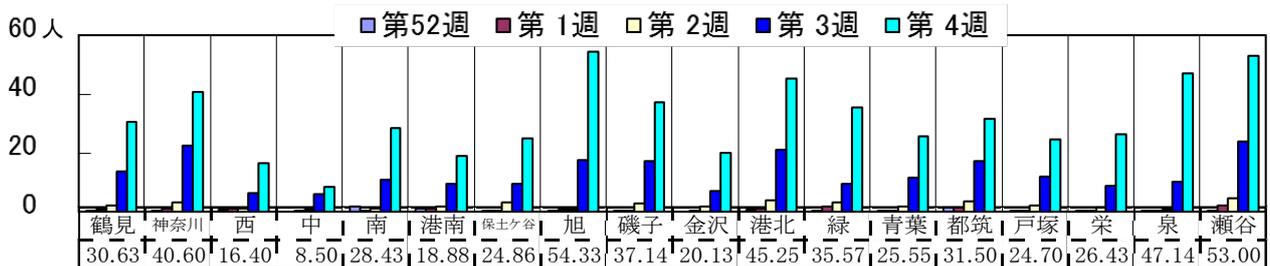
※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる内科・小児科の医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

※2 13.50: 流行情報2号では13.71と記載しましたが、その後の追加報告で数値が変動しました。

1 市内流行状況: 第4週に定点あたり32.52となり、警報レベル(30.00)を上回りました。前週の注意報発令から1週間での警報発令です。第4週での注意報発令は昨シーズンと同じ(昨シーズン警報発令:平成23年2月3日)です。

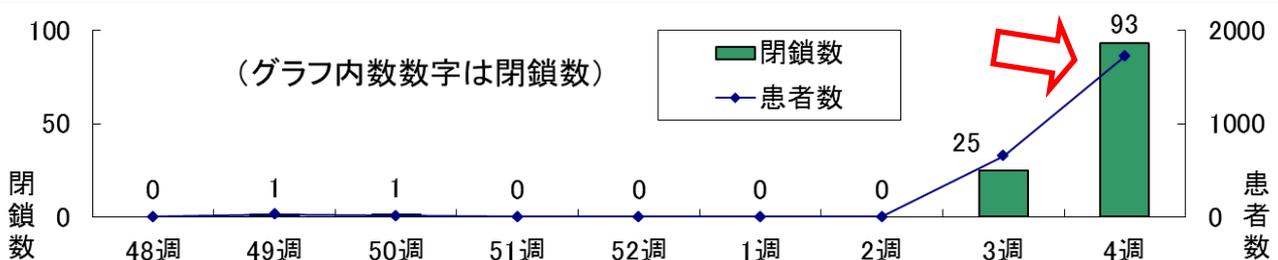


2 区別流行状況: 最も多い区は旭区 54.33 で、次に瀬谷区 53.00、泉区 47.14、港北区 45.25 などとなっており、警報レベル9区、注意報レベル8区です。

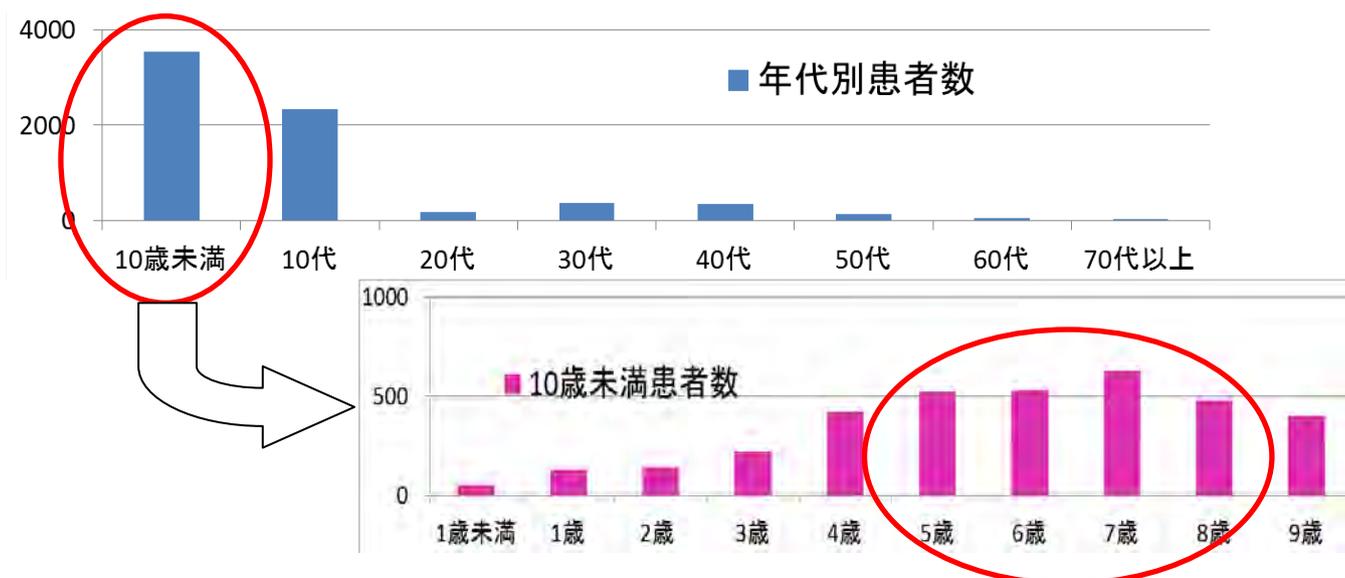


3 市内学級閉鎖等状況: 第4週93件と、前週の25件^{※3}から3倍以上に増加しました。施設種別では多い順に、小学校53件、中学校29件、幼稚園10件、高校1件です。第5週に入っても引き続き各区から報告が来ている状況です。

※3 25件: 流行情報2号では22件と記載しましたが、その後の追加報告で数値が変動しました。



4 年齢層別集計: 昨年第 52 週から今年第 4 週までの直近 5 週間の累計では、10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では 5~8 歳で多くなっていました。



5 迅速キット結果: 今シーズンの 2012 年第 4 週現在の累計では、A 型 90.8%、B 型 9.0%、A と B 型ともに陽性 0.2%となっています。

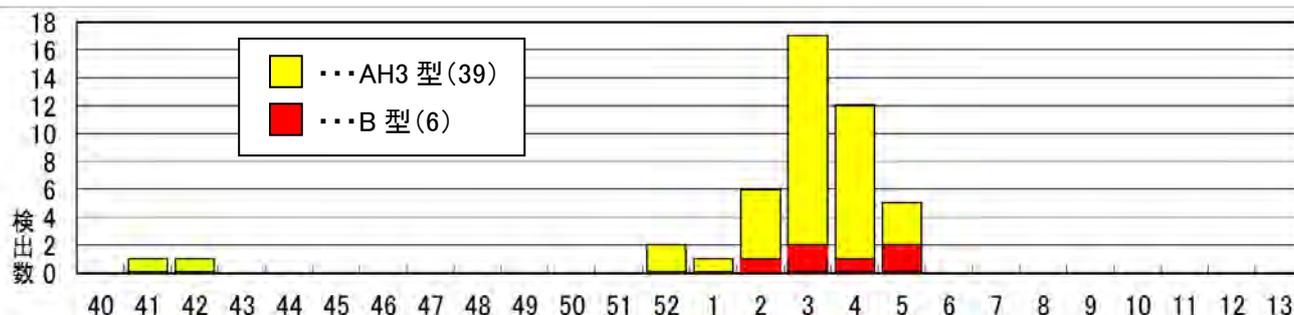


6 病原体検出状況: 市内で 45 件検出されましたが、AH3 型 39 件(86.7%)、B 型 6 件(13.3%)でした。全国では、2 月 2 日現在で AH3 型 90.2%、B 型 9.5%、AH1pdm09 型 0.4%^{※4}となっており¹⁾、横浜市と同様に 5 年ぶりに AH3 型主流の流行となっています。国立感染症研究所によると、AH3 型の抗体保有率は特に 0~4 歳で 30%台と低く²⁾、注意が必要です。

1)インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/12 シーズン:国立感染症研究所 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/influ.html>

2)平成 23 年度インフルエンザ抗体保有状況調査:国立感染症研究所 http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flu/2011Flu/Flu11_3.html

※4 小数点以下第 2 位を四捨五入した値です。



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

同 検査研究課ウイルス担当

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9816

TEL 045(754)9804